



カンファレンス会場（左上：会場内）

2003年7月7日から7月10日までアメリカサンディエゴにて開催された「ESRI International User Conference 2003」に参加しました。参加の目的はESRI社製GISソフトウェア「ArcGIS」の最新情報を収集してこること、またGIS先進国であるアメリカでのGIS活用状況を把握してこることでした。カンファレンスは世界中からGIS技術者が集まり、大変大きな規模で行われたため、全てを見学することはできませんでしたが、今回はその中でも私の見たいいくつかの情報をレポートします。

センターホールでのイベント

ESRI社Jack Dangermond氏による基調講演と今後のGISの方向性、GISソフト「ArcGIS」の最新バージョンの紹介などが行われました。ホールを埋め尽くすほどのユーザーが参加していましたが、スーツ姿の人たちよりもTシャツと短パン姿の人たちの方が多く、Jack Dangermond氏が時々披露するジョークに大笑いしたり、拍手をしたり、にぎやかな基調講演でした。

最新バージョンのデモを公開する所では、壇上の開発者が新しい機能を動かすたびに、拍手と歓声があがり



ポスターの一部

ました。

ArcGISの最新版は現行のバージョンよりさらに使いやすくなり、動作も軽快になっている印象を受けました。

マップギャラリー

他のホールではポスター発表が行われていました。NASAやNational Geographic誌などの大規模なブースから地方大学の研究室の小さなポスターまで、膨大な量のポスターが発表されていました。1つ1つをじっくり見ることはできませんでしたが、野外調査でのデータ収集の様子はGPSを利用したものが多く、またGPSに接続されて

ESRI / ユーザーカンファレンス 2003参加レポート



インターフェイスの作成方法を解説するスタッフ

いるデータ収集のインターフェイス（データ入力画面）をどういった形に作ったか、といったポスターをよく見かけました。

展示会場

展示会場ではArcGISの最新バージョンの体験や、操作方法の説明などが行われていました。中でもGPSでダイレクトにGISを操作できるソフトウェア「ArcPad」のブースには、絶えず何人かの参加者が座っていました。

収集したデータを持ち帰れば、そのままGISデータとして解析を始められるといった点が非常に便利なソフトウェアでした。



ArcPad 操作画面

カンファレンスに参加して

今回のユーザーカンファレンスの参加者は、GISを扱う全ての分野から参加していました。中でも環境分野から参加者、発表者が多かったように思います。

アメリカではGISを利用した環境解析、野生動物管理が発達しています。こういったプロジェクトに関わった人達を見ていると、やはりその分野での専門家とGIS技術者との他分野交流がスムーズに行われているように感じました。

当社では生態技術者と生態分野出身のGIS技術者が互いに協力しあうことで、より高度な生態解析を提案していますが、GISの分野は基礎研究でも応用研究でも発展がめざましく、GIS技術者は絶えず最先端の技術に目を通しておかななくてはならないこと、同時に生態分野の知識も忘れずに吸収していかなければならないことを痛感しました。

（大阪支社自然環境研究室・森田哲朗）



展示会場